

# 歴史的分野における言語活動の実践と評価

～中世の特色を大観することをとおして～

宮城県公立中学校教諭

## 1 はじめに

平成20年度版小・中学校学習指導要領において歴史的分野ではとくに言語活動の充実と各時代の特色をとらえる学習の新設が大きな改訂点であり、それらへの対応が注目されている。そのなかで言語活動を充実させながらどのような力を身につけさせ、それをどう評価していくのか、試行錯誤されている先生方も多いのではないだろうか。私自身もこうした課題に対してさまざまな授業実践を行ってきた。また単元構成のなかで各時代の特色をとらえる授業をどのように構成し、実践していくのかという点についても追究してきた。本稿ではその試みを紹介したい。

## 2 実践的な授業案

### (1) 授業の組み立てにあたって

今年度の仙台市標準学力検査では、「中世の日本（鎌倉時代、室町時代）」の問題における平均正答率が、地理・歴史を選択した学校で42.4%、世界地誌先習の学校で45.6%と、ともに50%未満となっている。一昨年度の平均正答率40.9%より向上しているものの、十分に定着しているとはいえない状況である。

さらに、4択の際に、正答以外の3つの選択肢を選んだ誤答率が10～30%台で並ぶ問題があるなど、全体的に中世にかかわる社会的事象についての理解が深まっていないと考えられる。

また、地理的分野、歴史的分野ともに、短い文章で答えたり、複数の資料を読み取ったりするなど、応用力を問う問題の多くで、50%未満の平均正答率となっており、課題が見られた。

上記の結果をふまえて、今回は、定着が不十分な「中世」を取り上げ、言語活動の充実という視点もふまえながら、文章や言葉で表現する活動、複数の資料を読み取る学習活動を、授業のなかで提案することとした。

### (2) 本授業における提案

「中世の特色」をとらえさせるためには、生徒が政治や経済、文化などを混同せずに理解することが必要と考え、政治史、対外関係史、経済・社会史、文化史で学習内容を整理させることとした。そのうえで、学習内容のまとめりに「中世の特色」をとらえさせる学習活動を設定し、最終的にそれらを活用して「中世の特色」を大観できるような単元構成を考えた。具体的には次の2つの点を提案したい。

### 【提案1】「中世の特色」をとらえるための単元構成のくふう

・政治史、対外関係史、経済・社会史、文化史というそれぞれの視点から「中世の特色」をとらえさせる学習活動を設定する。

・「各時代の特色をとらえる学習」の新設という歴史的分野改訂の趣旨をふまえ、政治史、対外関係史、経済・社会史、文化史から多面的・多角的に「中世の特色」を大観し、まとめさせる学習活動を設定する。

・時代ごとの想像図（タイムトラベル）を活用することで時代を大観させながらも、さまざまな視点からその変化を前時代（古代）と比較し特色を見つけていく活動を設定する。

この学習活動を通して、政治史、対外関係史、経済・社会史、文化史という視点ごとに時代をと

らえ、またそれが影響し合って時代の特色をつくっていることを理解し、多面的・多角的に前時代と比較して民衆のくらしの変化に気づくことができる考えた。

## 【提案2】学習内容や資料の比較・関連づけを

### 意識した言語活動の展開

・前時代の学習内容を活用し、複数の資料から適切に読み取った内容と比較・関連づけをしながら、説明したり解釈したりさせる。

・経済・社会史から見た「中世の特色」について、資料をもとに根拠を明らかにして具体的にとらえさせ、自分の言葉で論述させる。

この学習によって言語を活用した学習（言語活動）のなかで、身につけていくべき力を段階ごとに設定し、資料をもとに自分の言葉で時代の特色を表現することができる考えた。

具体的には、言語活動を取り入れるなかでグラフや資料から内容を読み取ること、次にその資料に示される社会的事象の意味を考える解釈、そしてその複数の社会事象を関連づける説明、最後に時代を特色づける社会事象について、資料をもとに根拠を明らかにして時代の特色を論述する、といった段階ごとに学習課題を設定し、学習内容を積み重ねていかなければならないと考えた。

## (3) 授業実践例

### ①単元について（教材観）

本単元は学習指導要領の内容(3)「中世の日本」の中項目

「イ 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、禪宗の文化的な影響などを通して、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解させる。」

をもとに構成した単元である。

中世は、それまでの天皇や貴族が中心であった政治から、武士が中心となった政治が始まることによって経済・文化なども大きく変化した時代で

ある。政治では、貴族政治の荒廃を背景に武士が台頭し、やがて武家政権が誕生して武士による政治が展開していった。対外的には、東アジアとの交易など活発な交流が見られ、それを背景に、国内の経済・社会面では、産業や交通がいちじるしく発達し、民衆の生活が大きく変化した。このように、中世は、統一政権の誕生ともあいまって、政治・経済・文化などの面で大きな変化が見られ、産業や交通がいちじるしく発展するなかで、近世の基礎が形成された時代といえる。

中世の経済や社会の変化を考える際、農業など諸産業の発達や、畿内を中心とした都市や農村における自治的なしくみが成立したことは、当時の経済・社会における大きな変化であった。このような変化を、技術面の進歩によって農業や手工業がいちじるしく発達したことや、それにもなって人々の生活が向上したこと、商品流通が活発化したことなど、民衆の生活という視点から追究することで、中世という時代の特色が浮かび上がってくると考える。

このように、支配者の立場にとどまらず、民衆も含めてさまざまな立場から変化を追究できる点で、多面的・多角的な見方や考え方を培う重要な単元の一つであるといえることができる。

### ②小単元と目標

「民衆のくらしからみた中世」

『社会科 中学生の歴史』（以下、教科書）p.70～73

#### <目標>

(1) 農業などの諸産業の発達や民衆のくらしの変化について意欲的に追究する。

【関心・意欲・態度】

(2) 民衆のくらしの変化について多面的・多角的に考察し、都市や農村における自治的なしくみができた背景や古代との違いを自分の言葉で表現する。 【思考・判断・表現】

(3) 農業などの諸産業の発達のようにすを適切に各種資料から読み取る。 【技能】

(4) 都市や農村における自治的なしくみが成立し、民衆の成長を背景とした当時の社会的

<表1 単元の評価規準>

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
<p>a 農業などの諸産業の発達について意欲的に追究している。</p> <p>b 古代と比較し中世の特色を民衆の暮らしという視点から意欲的に追究している。</p>	<p>a 都市や農村における自治的なしくみができる背景について考察している。</p> <p>b 中世の民衆の暮らしについて古代と比較しながら、多面的・多角的に考察し表現している。</p>	<p>a 農業などの産業の発達の様子を資料から適切に読み取っている。</p>	<p>a 都市や農村におけるしくみが成立し、民衆の成長を背景とした当時の社会的変化について理解している。</p>

な変化を理解する。

【知識・理解】

学習活動が不十分であったことを示すものである。

### ③生徒の実態

私の受けもっていた1年1組は、男子15名、女子17名、計32名の学級である。社会科に関するアンケートをとったところ（32名回答、平成24年5月7日実施）、歴史的分野への興味関心については、25名の生徒が好きと回答している。5名の嫌いという生徒の理由には、暗記することが多くたいへん、覚えるだけではつまらない、が挙げられる。苦手と答える生徒にとっては、社会科は暗記教科ととらえられていることがわかった。

一方、授業形態については、一斉授業よりグループでの学習を望む生徒が多く（25名）、級友とともに調べ追究していく学習や相互の考えを把握する学習活動に関心があると答えている。

以上から、生徒が個人さらには級友とともに主体的に授業にかかわることのできる学習活動を展開する必要があることがわかった。

さらに、奈良時代はどのような時代か、鎌倉時代とはどのような時代かを問うと、生徒は時代の特色を、おもに政治を中心にとらえていることがわかった。つまり、その時代に生きるさまざまな立場の人の生活や社会、そこから生まれた文化を特色ととらえる生徒は少ないことがわかる。この実態は、日常の歴史的分野の指導が、多くの場合、政治の動きやその変化を指導の軸としたことで、歴史的事象の多面的・多角的な見方や考え方の育成や新学習指導要領が求める「時代の特色を大観する」

### ④指導にあたって（指導観）

アンケート結果から、生徒が主体的に授業にかかわる場面を設定し、グループ学習による多様な意見の交換のなかから、歴史的事象に関する多面的・多角的な見方や時代の特色を大観する力を育成する学習展開を設定する必要があると考えた。

本単元の指導にあたっては、民衆の暮らしという視点から当時の経済・社会における大きな変化に着目し、複数の資料から「農業などの諸産業の発達」と「畿内を中心とする都市や農村の自治的なしくみの成立」を読み取らせ、それにより民衆の力が生活とともに向上したこと、古代と比較してその地位が向上したことを明らかにしていきたい。古代と中世の2種類のタイムトラベルから時代の移り変わりや相違点をイメージさせ、具体的に比較・考察させる。その際、考察の根拠を明確にさせるためにどのような資料が必要かという点についても意識させる。

### ⑤本時の指導（3／3）

#### （1）本時のねらい

古代と比較しながら、民衆の暮らしの視点から中世の特色を自分の言葉で表現し、資料をもとにその根拠を考察する。資料としては、教科書、『アドバンス 中学歴史資料』（以下、アドバンス）、オリジナルのプリントなどを用いた。

#### （2）本時の指導過程と生徒の反応

本実践を表にまとめた（表2参照）。

&lt;表2 指導過程と生徒の反応&gt;

○学習内容 ・生徒の反応	○教師の働きかけ ・指導上の留意点	評価	資料 ・準備物
<p>1 今までの学習を振り返る ○教科書p.26～27とp.58～59のタイムトラベルを比較して民衆のくらしが変わった点を見つけ、中世の時代について既習の学習を振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい職業ができた</li> <li>・農業が発達した</li> <li>・商業が発達した</li> <li>・くらしが豊かになった</li> </ul> <p>2 古代と中世の違いから中世の特色を自分の言葉で表現する</p>	<p>○タイムトラベルの絵をそれぞれ2台のテレビに映すことで、全体で共有させながら、既習内容を振り返らせる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒の発言から、既習の内容について確認する</li> <li>・古代と中世を比較する際、あくまでもタイムトラベルは想像図であることをつけ加える</li> </ul> <p>○自分の言葉で表現しやすくなるよう、古代の学習プリントも活用し古代の特色を確認させる</p>	古代と比較し意欲的に追究している	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テレビ2台</li> <li>・ワークシート</li> <li>・教科書</li> <li>・資料集</li> <li>・古代の学習プリント</li> </ul>
<p><b>中世とは民衆のくらしからみてどのような時代といえるのか</b></p>			
<ul style="list-style-type: none"> <li>・職業が増えた時代</li> <li>・くらしが豊かになった時代</li> <li>・民衆の力が強くなった時代</li> </ul>	<p>○個人で考えた時代観をグループでしぼる。おもしろい時代観については発表の際につけ加える</p>		
<p><b>提案2 学習内容や資料の比較・関連づけを意識した言語活動の展開</b></p>			
<p>3 なぜそう考えたのか、既習の資料をもとに、根拠を明らかにして説明する</p> <p>資料 「一向一揆の旗」(教科書p.72)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支配するものに抵抗したから</li> </ul> <p>資料 「結桶師」(教科書p.71)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しい職業が発達したから</li> </ul> <p>資料 「車借」(アドバンスp.58)</p> <p>資料 「二条河原の落書」(教科書p.62)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幕府の力が弱まったから</li> </ul> <p>資料 「祇園祭のようす」(教科書p.73)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・民衆の団結力が強くなった</li> </ul> <p>資料 「備前国福岡荘の場面(『一遍聖絵』)」(教科書p.45)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・諸産業の生産力が向上した</li> </ul> <p>4 発表をふまえて、改めて民衆のくらしという視点から中世を自分の言葉で表現する</p>	<p>○教科書・資料集から選択するのが難しいグループには声をかける</p> <p>○発表の際はテレビに資料を映し出して発表できるよう、あらかじめPCに資料を入れておき、補助的に提示して発表をわかりやすくする</p> <p>○資料ごとにキャッチコピーの理由と資料選択の理由を表現させる</p> <p>○1つの例として言葉で発表したのを図式化して最後の中世のまとめについて示唆する</p> <p>○数人に発表させる</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・改めて個人で中世という時代を民衆のくらしという視点から見直して表現することで個人の意見に深まりをもたせる</li> </ul>	中世の民衆のくらしの特色とその根拠を古代と比較しながら適切に表現している	



&lt;表3 単元の指導計画（3時間扱い）&gt;

時間	おもな学習活動 (内容)	指導上の留意点	評価	資料・準備物
1	技術の発達とさまざまな職業	・複数の資料から農業をはじめとする諸産業の発達を読み取り、民衆の生活が向上したことを考察させる	関 a 技 a	陶磁器 職人絵合わせ ワークシート
2	民衆による自力救済	・「一揆」の背景には、力をもった民衆の存在があったことを考察させ、その後の都市や農村での自治的しくみの成立という社会の変化についてまとめさせる	思 a 知 a	ワークシート 一向一揆の旗 祇園祭のようす
3 本時	民衆のくらしからみた中世	・既習の学習を振り返り、民衆のくらしという視点から、中世の特色を自分の言葉で表現する ・その特色の背景にはどのようなことがあったのか、資料をもとに検証することで、中世という時代を多面的・多角的にとらえさせる	関 b 思 b	ワークシート テレビ2台 ホワイトボード(グループ用)

### 3 言語活動の充実に資する活動について

ここからは本単元において行いたいいくつかの言語活動について詳しくみていく。

時代の特色を表すキャッチコピーを考える言語活動に至るまでには、さまざまな段階が必要となった。まずは資料を正確に読み取るという点から、資料を多様に授業で紹介し古代を学習するころから、資料の読み取りに力を入れてきた。また、その資料が表す意味について学習班で話し合わせ、その時代にとってどのくらい大切に意味の深い社会的事象であったかランキングを行った。次にその根拠として、その社会的事象が何に影響したのか、どのような原因で起こったのか、複数の資料をグループ分けして、そこにタイトルをつけるなどのグルーピングを行う活動をしてきた。

例えば次のような実践である。

#### 言語活動の段階

##### ＝①資料の読み取り

資料からいえること、たとえば十七条の憲法であったら「一に曰く、和をもって貴しとなし」という条文がなぜ必要だったかを話し合わせ豪族同士の対立や政治の混乱などの時代背景を読み取るといった方法で資料を提示し、予想をさせ検証していくという授業を展開していった。生徒はさまざまな歴史観から多様な答えが出るようになった。前の時代がこのようであったからこの時代にはこうなっているのではないかなど前時代と比較するようにもなってきた。

##### ＝②資料の時代における影響を考える

まとめや振り返りの学習において歴史的な事象が、



その時代の特色にどのくらい大きな影響を与えたかをランキングする。その際、できる限り資料に関連づけて説明するようにして話し合わせた。まずは個人の考え、次に4人の学習班での話し合い、そしてまた個人としてどう思うのかという授業を展開した。生徒は最初考えたランキングと最後話し合いを終えた後で考えたランキングでは順位が変動することよりも、その理由がより歴史的背景をとらえた詳しいものになっていた。その変化について取り上げ、紹介した。

### ＝③資料のグルーピング

まとめや振り返りの時間にこの単元で学習してきた資料をグループ分けして、そこにタイトルをつけた。個人で分類したものを学習班でさらに分類しそこにタイトルをつけるとさまざまな分類の仕方が出てきたが、タイトルをつけてみると政治に関するもの、外交に関するもの、経済・社会に関するもの、文化に関するものに自然とわかれ、そこに視点をおいて時代を見ていく必要性を生徒たちは知った。

### ＝④資料をもとに時代の特色をキャッチコピーで表す

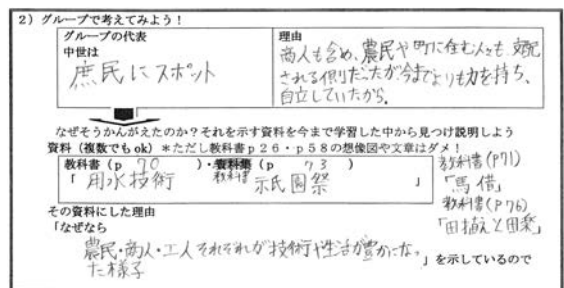
あえて短い言葉でその時代を表すことで視点(政治、外交、経済・社会、文化)をはっきりさせ、その時代においてどのような分野がどのように発達し、その時代に大きな影響を与えたのか、それを自分の中ではどうとらえているのか(自分の中の歴史観)が明確になると考えた。中世のまとめの授業において本授業を実践した。

本時では中世を学習するうえでこれまでの活動を取り入れ、さらにこの中世という時代の特色を表す資料を複数取り上げ、キャッチコピーをつけるという、あえて短い言葉で表現するという学習を行った。

まず、タイムトラベルを提示した。前の時代を表すタイムトラベル(教科書p.26～27)もしくは(教科書p.46～47)と本単元で学習した時代を表すタイムトラベル(教科書 p.58～59)を2台の

テレビに実物投影機で提示することで、自然と前時代との比較ができ、さまざまな視点が生まれた。例えば「くらしの部分でさまざまな職業が起こり、町が華やかになったように思える」、「さまざまな職業ができた一方で身分や貧富の差が広がったように思える」、「依然として支配者が存在しているが、統制が取れていないように見える」など生徒自身が前に出て実物投影機でタイムトラベルの自分が主張したい部分をクローズアップさせて示しながら発表した。その比較という観点をもたせたうえでキャッチコピーづくりにはいった。

最初、生徒は個人でその時代のなかで一番影響をもつ資料を示し、キャッチコピーをつくることが多かったが学習班での話し合いをすることで多様な歴史観にふれ、資料が複数で影響しあっていることに気がついた(生徒の記入例①)。そこで複数の資料をもとにその時代のもつ特色を考え、新たにキャッチコピーを考えました。



生徒の記入例①

発表では教科書や資料集の写真などの資料を実物投影機でテレビに映し、その資料同士がどのように関連していて時代の特色をつけていったのかを説明したうえでキャッチコピーを発表した。

時代をとらえるときには既習した事項をいかし、前時代と比較しながら観点ごとに見て政治、外交、経済・社会、文化においてどのように変化したか、また、その変化によってこの時代や中世という時期がどのような特色をもつのかを考えることができた。また単に政治、外交、経済・社会、文化ごとに変化するのではなく、お互いに影響をもちながら複合的に時代を特色づくっていくことも考え

ることができた。(生徒の記入例②)

2) グループで考えてみよう!	
グループの代表 中世は 政治がもたらした自由	理由 商人の多治など豊かになったのは、幕府が 日明貿易を行い、海運などにより、 背景があったから。
なぜそう考えたのか?それを示す資料を今まで学習した中から見つけ説明しよう 資料(複数でもok) *ただし教科書p.26・p.58の思惟図や文庫はダメ!	
教科書(p.64)・資料集(p.46)「幕府」	
その資料にした理由 「なぜなら 商人が貿易できたのも政治の影響を天かたし、 東アジアで外交していたことで、より活発化したこと」を示しているのだ	

生徒の記入例②

最後に授業のまとめとして、自分もっていた歴史観と、話し合いや発表を聞くことで変容した歴史観をくらべ意見を書かせた(生徒の記入例③)。

自分の考える民衆の暮らしからみた中世とはどんな時代か文章で表現しよう
・話し合い前の自分は 庶民のくらしが豊かになったこと新しい技術があった
ここに目をむけていました。
・話し合い後の自分は 政治と幕府が貿易を再開したり、それを商人にまで開放して中世の東アジアの中で活況があったことが、それによって、政治や外交によりくらしが豊かになった時代と考え方が変わりました。

生徒の記入例③

上記は単元を選ぶことなく実践できる言語活動を中心とした学習活動といえる。

#### 4 授業評価について

言語活動を取り入れた学習活動のなかで、本授業は資料をもとに自分でキャッチコピーを考え班で話し合うことで多様な意見に気づき、深めていく学習である。評価については各グループの机間支援で個別に話し合いのようすを見ていくほかない。学習において、キャッチコピーをもとにした話し合いでは、生徒は意欲的に取り組んだ。机間支援の際に名簿にその話し合いのようすを評価した。学習班の代表の作品からもその資料の読み取りや根拠づける言語活動をとおして得られた成果を評価した。

しかし一人一人がこの学習を通して、いかに質の高いキャッチコピーをつくるかではなく、この学習を通してどのように自分の考えが深まったかを評価の対象としなければならないと考え以下のようにくふうした。

話し合い前の自分の考えと話し合い後の自分の考えの違いをワークシートに書くことにより、その変容から言語活動を段階的に取り入れた効果が明らかとなった。言語活動の段階に応じて身につける力を明確にしたことにより、その評価も明らかとなった。本授業では最終段階である、根拠を明らかにして自分の言葉で時代観を表現するという課題に対し、授業前と後での変容が大きく見られた。

本授業では、まずは根拠をもとに自分なりの歴史観をもつことが大切である。そのため評価においては根拠をしっかりと資料をもとに説明できているかがポイントとなる。そのためワークシートの記述から上記の部分が書けているか評価していく。基準としては中世という時代を政治、外交、経済・社会、文化という観点から多角的にとらえているか。どれか一つの観点からとらえ資料をもとに説明できていればBである。複数の観点から多面的にとらえ複数の資料をもとに説明されていればAといえる。時代の特色はいえるが資料が探せなかったり、根拠が明確でないならばCとなる。Cの生徒については学習プリントをさかのぼり、資料の「読み取り」やあるいはランキングなど歴史的事象の意味を考える「解釈」にさかのぼり確認することで支援する。

また、歴史観は多様であっても、今まで学習した事項をキーワードとして押さえているかも知識理解の定着を観るポイントとしたい。

#### 5 おわりに

以上のように、中世の特色を大観するための言語活動を実践してきた。単元構成をくふうしまとめの時間を設置しなければならないが、テレビなど活用しなくても取り組めるので研究授業としてだけでなく普段使いの授業としても実践できる。今後もこのような活動を取り入れ、生徒が自らの言葉で各時代の特色をとらえられるよう指導していきたいと思う。